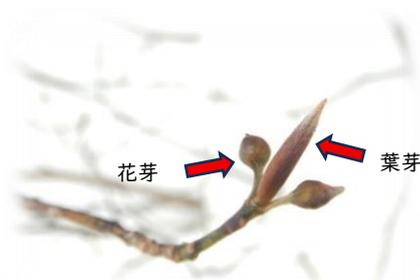




# Nature News

撮影：2026年2月20日 網張の森

## ▲・▼冬芽の観察▼・▲



**オオバクロモジ (クスノキ科)**  
枝先中央の細長い芽は「葉芽」。左右の丸いのは「花芽」です。葉より先に淡黄色の小さな花を多数つけます。



**ハウチワカエデ (ムクロジ科)**  
芽吹きだした若葉とともに散房花序（花をつける茎から四方八方に広がって咲くこと）を出し、暗紅紫色の花を多数吊り下げます。



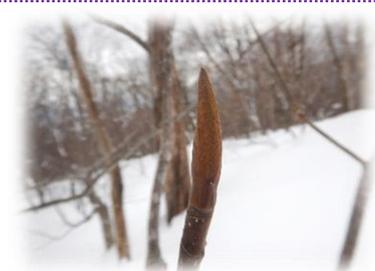
**アオダモ (モクセイ科)**  
材の特性を活かしてバットやテニスラケットなどの材料になることでも知られています。かつて大谷翔平選手がバットに使用していたことで有名です。



**イタヤカエデ (ムクロジ科)**  
葉痕と頂生側芽が顔のよう…。葉が開く前に、蛍光色のような鮮やかな黄色の花を枝一面に咲かせます。



**ウワミズザクラ (ムクロジ科)**  
花は試験管を洗うブラシのような形で、白い花が穂状にたくさんつきます。



**ホオノキ (モクレン科)**  
大きくて存在感のある冬芽は、芽鱗という皮質のコートで越冬対策をしています。

## ▲・▼ちょっと気になる出会い▼・▲



**ブナ (ブナ科)**  
幹にクマの爪痕がたくさん付いていました。登る時はピックルのように爪先を木の樹皮に突き刺すことで、体を支えて木に登り、下りる時は、爪をブレーキのように使うことがあるそうで、木の幹には複数の縦に長く並行に樹皮がめくれた痕跡ができます。



折れた枝先から氷柱ができていました。



立ち枯れた木にキノコがたくさん見られました。キノコは養分のあるものにくっついて、養分を取り生活しています。キノコは植物などの要らなくなったものを食べて腐らせ、土に戻しています。